



道  
守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.17 春号

特集 道守九州会議交流会 2007 みちづくし in ふくおか  
道との共存  
地域づくりから九州風景街道へ

交響の道を行く・新街道風景

篤姫ブームも後押し

薩摩路はいま、「燃ゆる思い」溢る

巻頭随想

ふたりの珍道中から、末広がりの道へ  
阿木燿子

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き街のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



CONTENTS

- 01 巻頭随想  
「ふたりの珍道中から、末広りの道へ」  
阿木燿子
- 02 特集 道守九州会議交流会2007  
みちづくし in 福岡  
道との共存  
地域づくりから九州風景街道へ
- 03 道守の輪  
道守長崎会議、ブロック会議を開催  
マイツリー 植樹式に86人・大分
- 04 わたしの好きな道  
思い出の道 次の世代に伝えていきたい  
井上裕美子
- 05 私たちの道守活動
- 06 交響の道を行く・新街道風景  
篤姫ブームも後押し  
薩摩路はいま、「燃ゆる思い」溢る
- 07 海外道事情【韓国】  
九州に一番近い外国・韓国を走る  
慶尚南道のドライブ
- 08 道守たちのトピックス／人物伝

表紙画：久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭  
随想

# 阿木燿子

ふたりの珍道中から、

末広りの道へ。



九州の最初の思い出は、宮崎・鹿児島への新婚旅行です。12月に結婚式を挙げ、翌日から新婚旅行。ジーンズ、パンタロンの軽装で、ギターを片手に、最後は屋久島まで足を伸ばしました。計画を立てない行き当たりばつたりの珍道中でした。当時、宮崎は新婚旅行のメッカでしたが、冬だったから暖かいところへ行きたかった、のかもしれない。その後、今もって人生の珍道中を続けている感じです。

子どものころから、結婚にはひとつのイメージを持っていました。毎朝決まった時間に仕事に行って、決まった時間に帰ってくる人とは、絶対に結婚しない！浮き沈みの激しい父の生活を見ながら、紆余曲折と変化にはついていけないけど、退屈には耐えられないだろうと思っていました。主人が芸能や作曲などの不規則な仕事をしていることは、私にとってはプラスの要素でした。

最初はふたりからのスタートでしたが、ふと横を見ると、広い道にたくさんの道連れがいる。私の場合、「ひふみコーラス」やフラメンコ版「曾根崎心中」のプロジェクトで、それを感じています。

進路に悩んだときには、目をつぶって、実際の道をイメージします。こっちに行くとき止まりだな、こっちに行くとき末広りの道だな。コーラスをはじめるときも、その先に明るく地



■プロフィール  
ダウン・タウン・ブギウギ・バンドの「港のヨコ・ヨコハマ・ヨコスカ」で作詞家としてデビュー。夫の宇崎竜童と共に作詞・作曲し、山口百恵の黄金時代を支える。近年は「曾根崎心中」とフラメンコを融合させたステージ「FLAMENCO 曾根崎心中」、「ひふみコーラス」をプロデュース。2006年芸術選奨受賞。おしどり夫婦として有名。

平線に続く道がイメージできました。そのときから、努力が苦にならなくなりました。

道って、もともと人肌のようなあたたかいものを感じさせますよね。たくさんの人々が繰り返し踏みしめてきたものが道になったわけですから。その道を自分たちの手でつくり、守っていくという発想は、まさに人生の原点だと思います。

無邪気に、無償で、時を忘れて没頭できる活動は、後からやって来る喜びがとて大きく、やってよかった！と感じられます。

今、主人と私は「ひふみコーラス」のように、みんなで心を合わせることによって成り立つ活動、それがたくさんの人々の生き甲斐や楽しみにつながる、そんな喜びの波動を世に広めたいと思っています。

まずは、志を高く。行く方向はピンツとぶれずに。すべき努力はいとわかない。そうすれば、何事もうまくいく気がします。



## 第2分科会 人と車が共存する道

「コーディネーター」大貝知子（株式会社大貝環境計画研究所代表取締役社長）「パネリスト」井上智明（長崎街道を愛する会会長）田川真二（W.O.L.O.V.天神協議会ガイドライン部会交通ワーキング長）杉山和（長崎大学環境科学部准教授）東川隆太郎（NPO法人がこしま探検の会代表理事）

### 道守が育む“道を感じる心” 人と車の融合のヒントに

第2分科会は、人と車が、道守活動を通してどのように共存するかを模索。現在の課題や人と道が調和できる可能性を探った。



「マイカーの発展によって北九州の副都心・黒崎の集客力が低下した」（井上さん）、「車がリビングと同じになり公共心の低下につながった」（田川さん）などの問題点が出た一方、斜面部市・長崎の実態として、杉山さんから「車が入れない道が多いために高齢化が進んでいる」と、道路整備を望む意見も出た。

道の意義を考える場面では、井上さんが「道は本来、人が主役なのでは」と問題提起。田川さんは天神で取り組む「歩いて楽しい都市空間の形成」について「プリンジパーキング（都市周辺部での公共交通機関への乗り換え）や自転車駐輪クーポンの配布」といった、共存の政策例を披露



川さんは「道は街づくりを考える上でヒントやきっかけを与えてくれる」と、道への思いを語った。

最後に、井上さんは「街づくりは人づくり。街と道を、道を通してつないでいきたい」、田川さんは「交通は環境がキーワード。ガイドラインをつくり、共有、行動へ」。杉山さんは「50年先を見越した持続可能な交通を」、東川さんは「これまでは交通量や事故率などの数字が道づくりのベース。今後は、数字では計れない人の感性や感情をベースに、道のあり方を考えてほしい」と、展望を述べた。



コーディネーターの大貝さんは「各地で行われている道守活動という、小さなボランティア活動に目を向けていくことで、道に対して感情や快適性、感じる心が出てくる。これは風景街道にもつながっていくのではないかな。それぞれの道守活動を楽しみながら、人と道、車との融合をしていきたい」と締めくくった。

## 第3分科会 道からの美しい地域づくり

「コーディネーター」森将彦（道守九州会議副代表世話人）「パネリスト」赤星文生（九州地方整備局道路部地域道路調査官）阿野史子（道守長崎会議事務局長）久恒雄一郎（九州風景街道九州横断の道やまなみハイウェイ協議会会長）谷越衣久子（九州風景街道日南海岸きらめきライン事務局）下津公一郎（NPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事）

### 道守活動の力あるネットワーク 多分野との連携で 地域づくりにも寄与

第3分科会では、各地の道守活動がどのように地域に密着し、地域づくりを行っているかを考えた。長崎の阿野さんは地下道の掃除や照明灯を増設した「馬町地下道プロジェクト」、大分の久恒さんはやまなみハイウェイを拠点とした景観保全や官民共同の「ミヤマカリシマの再生・復元」、



宮崎の谷越さんは青島の道路景観診断や油津の「通り名で道案内」などの事例を紹介。



鹿兒島・南薩摩地区で活動する下津さんは「体験型観光を通して地域の連携が生まれ、交流の

なかった市町村との広域的なルートづくりができています」と現状を発表した。阿野さんは「道づくりから地域づくりができる。地域の人たちと一緒に道は自分たちで守ろうという意識を育てたい」と強調。久恒さんは「景観だけを見ていくのではなく、訪れる人のことを考え、景観をつくる生活者や担い手のことも重視して活動したい」と、日ごろの活動で感じたことを語った。

谷越さんは宮崎での取り組みから「地域の財産である風景をデザインしていきたい。地域の人が主役になることで生きがいを持って活動できる」、下津さんは「住民が地域の魅力を再認識することで、元気がなり、新たな地域の産業を育てることができると展望を述べた。

4地区の報告に、行政を代表して赤星さんは「志を持って、地域の資産に磨きをかけ、地域住民が元気になってほしい。ネットワークづくりによって、連携・協力し、夢をあきらめずに輝いて」とエールを送った。森さんは「どの道守活動も地域に密着して連携を深め、力のあるネットワークが育っている」と感想を述べた上で、「道守は人材のつながりが基本。みなさんの活動は九州風景街道につながっていくと思う。道路、交通、農業と多くの分野で連携し、地域のみなさんと手をつないで力を合わせ、解決し、発展してほしい」とまとめた。



# 道守の輪

## 道守長崎会議

### 県内6地域の ブロック会議を開催 道守団体の交流、 ネットワークを強化

#### ブロック会議開催メモ

##### ■諫早地区ブロック会議（10月19日）

道守長崎会議初のブロック会議。諫早地区の道守会員をはじめ、歩道の清掃や花の鉢植え等を行っている老人会の方も参加。今後の道守活動のあり方や、行政との連携などを話し合いました。

##### ■西海地区ブロック会議（11月21日）

2回目は西海市大島町で開催。環境美化を考える会が栽培した有機無農薬野菜のお菓子をいただきました。同会は、生ゴミを堆肥にしてそれを歩道の植木や花の肥料としてリサイクルする取り組みも行っています。



有機無農薬野菜を紹介する田口昭子会長

##### ■大村地区ブロック会議（1月23日）

3回目は大村市の長崎県環境保健研究センターで開催。参加団体の中には地域住民、地元の企業、行政が連携し、地域全体で活動を進めているところがあり、とても参考になりました。

##### ■長崎地区ブロック会議（2月20日）

4回目は長崎市の長崎市立図書館で開催。回を重ねるごとに各地区の道守活動の内容や課題、問題点が見えてきました。長崎市の「通りの名前を利用した道案内」プロジェクトについても話し合いました。

##### ■小浜・雲仙地区ブロック会議（3月12日）

旧小浜庁舎議事室を使用し、雲仙・小浜地区会議を約80名で開催。奥村慎太郎雲仙市長も参加しました。島原半島の風景街道登録について話し合い、会議後は小浜散策を行いました。



米大統領選民主党候補オバマ氏の風と小浜温泉旅館組合女性部（女将の会）の高木アズミ会長

次回は佐世保地区ブロック会議を近日中に開催予定

## 道守大分会議

### 第2回 マイツリー植樹式に 86人が参加

3月1日、別大国道（国道10号）の六車線化を記念して、自分が植える木に愛称をつけ、愛着をもってもらおう、マイツリー植樹式が開催された。2回目となる今回は、抽選で選ばれた25グループ



植樹が終わって、全員集合！

86人の家族連れらが参加。歩道沿い約300mの間にシマトネリコとホルトノキを交互に植えた。「家族の記念に」「地域に住む誇りとして」など、木に対する参加者の思いはさまざま。参加者らは、夏に行われる年に一度の別大国道一斉清掃で、マイツリーの成長や植樹仲間とのコミュニケーションを楽しみ予定だ。



銀天街にある宿場風アーケード (宿場通り)



当時の面影を残す江戸の松



長崎街道・曲里の松並木入口

# わたしの好きな道

## 思い出の道 次の世代に伝えていきたい

### 長崎街道・黒崎宿の道 (福岡県北九州市)

北九州市八幡西区には、今も江戸時代の面影を残す黒崎宿と木屋瀬宿のふたつの宿場町があります。私は、生粋の八幡っ子で、生まれ育った黒崎には「長崎街道」が堂々と町の中を貫くように通っています。この「長崎街道」こそが、私の好きな道であり、私の町の財産、誇れる道です。

私の実家は、以前、黒崎駅前の商店街で商売をしていて子どもの頃、そこが私の遊び場でした。当時、町はとても栄えていて、黒崎で初めてのデパート八幡井筒屋ができ、旧厚生年金病院も建ったばかりで、にぎやかで楽しい雰囲気に包まれていました。子供たちも安心して買い物をしたり、遊んだりすることができました。

夏には、黒崎祇園の山笠が、太鼓と鐘の音とともに町中をねりまわり、冬は、商店街の初売りでアーケードには人がいっぱいいて、肩をふれ合わせながら、うきうきとして歩いたものでした。旧厚生年金病院に、大人についてお見舞いに行くと、上階の窓から「長崎街道曲里の松並木」を見下ろすことができました。

結婚して夫が、「長崎街道を愛する会」の会長として、北九州、特に長崎街道の文化や歴史を大切に保存、継承する活動を始め、私も、この会の女性版「北九州ふるさとを愛する会」の一人として活動に加わりました。

宿場祭りで、曲里の松並木にボランティアの屋台がずらりと並んだことがあり、子供たちに街道での楽しい思い出を作ってもらおうと、この屋台で、宿場うどんや光るおもちゃを販売するバザーをしました。子供たちとの長崎街道ウォークでは、松並木を歩いていたら、素浪人に扮した青年の人たちに追っかけられ、まるで江戸時代に街道を旅しているような気分になったものです。

20年余りの活動を経て、現在、長崎街道のことをもっと学び、その思いを子供たちや若い人に伝えていきたいと、私たちの会では、「長崎街道黒崎宿ふるさと歴史勉強会」を主催しています。黒崎には、長崎街道にまつわる史跡や名所が町中に点在し、四季を通しての祭り、イベントも盛りだくさんです。

私にとって、この「長崎街道」は、切っても切れない縁のあるありがたい道だと痛感しています。



プロフィール  
井上 裕美子

北九州ふるさとを愛する会事務局。子供たちにふるさと(特に長崎街道)の誇り・愛を持ってもらうために、情報物産実験店舗の開設、高校生との街道視察バスツアー等の活動をしている。



# 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介していきます。

## 熊本 道守くまもと会議

### 官民協働で社会実験 「道路を使った情報発信」の可能性を探る

道守くまもと会議と熊本県、熊本市でつくる「くまもと夢のみち協議会」では、2月8日〜3月下旬までの間、道路を使った情報発信の社会実験を行いました。また昨年の社会実験で作成した「通り名絵地図」が、市内に設置されることになりました。

## 「ポイ捨て・路上喫煙禁止」「バス停案内」「光の花壇」 3つの社会実験を実施

2月8日、「平成19年度情報発信媒体としての道路空間の活用可能性に関する社会実験(熊本中心市街地)」のオープニング式が行われました。

今回の実験は、「くまもと夢のみち協議会」

が、国土交通省の募集する社会実験にエントリーして実



蛍光石を使った「光の花壇」(水道町交差点)

施に至ったものです。

①「ポイ捨て・路上喫煙禁止」を告知する路面シールを20カ所に設置 ②5つある市役所前のバス停からの各行き先を案内する「バ



自販機に貼り付けられた「通り名絵地図」

熊本市内の通り名を紹介する「通り名絵地図」が、上通・下通・サンロード新市街に設置されている南九州コカ・コーラボトリングの自動販売機約50台に、2月から貼り付けられました。

平成18年度の社会実験「熊本中心市街における通り名を活用した道案内」の成果が、形になりました。

## 自販機50台に 「通り名絵地図」 昨年度の 社会実験から

ス停案内」路面シールの設置 ③特殊な光をあてると青、緑、赤、黄、ピンクの5色に輝く蛍光石を使った「光の花壇(光のみち)」の3つを実施しています。

また、行き交う人や企業へのアンケートも行い、道路空間の有効活用策を模索していきます。

## 帯山中学校

## 熊本

## 生徒発案で道守花壇整備 国道57号の道路清掃も



帯山中学校(熊本市)では、昨年道守花壇の活動を始めています。道守花壇とは、熊本の国道沿いを花でいっぱいにする活動で、花壇は県内30カ所にあります。生徒たちはその一つ、国道57号沿いの花壇を担当し、毎日朝早くから自主的に手入れをしています。

活動の始まりは、剣道部の生徒たちの発案です。もともとは落ち葉と雑草ばかりだったこの花壇を、先生や保護者と協力し、四季折々の花を咲かせる花壇へと変えていきました。

「剣道で一流になるためには、心も一流でなければ」と、剣道部員やそのほかの部活動生などが、「ハートフルストリート」として学校沿いの道の掃除や花の手入れにも取り組んでいます。

生徒たちは「これが日常なので早起きもつらくありません」「朝から作業すると心がきれいになる気がします!」と、きれいな花と友達のように話しています。これからも地域と一緒に、花や緑の輪を広げていく予定です。



(本郷 司)



「行き先は大丈夫?」現在地とバス先の行き先を表示

# 私たちの道守活動

## 福岡



### 筑後川昇開橋若津町振興会「もりあげる会」

#### 昇開橋とおして地域交流 遊歩道清掃でPR活動も



私たちは、毎月第一日曜日の朝8時から、多量ときで80人、少ないときでも30人ぐらいで昇開橋周辺の除草を中心に、公園の清掃、バスターの花壇造り、側溝の下水そうじ、堤防のゴミ拾いなど1〜2時間の作業をしています。

昇開橋は、筑後川が有明海にそそぐ河口にかかっている昇降式の橋で、平成15年に国指定重要文化財に指定されたことで、訪れる人が少しずつ増え始めました。

しかし、橋周辺は工場跡地で、ススキやセイタカアワダチソウなどの丈の高い草に覆われ荒れ放題。そこで、住民たちの手で除草し、花を植え、訪れる人たちに喜んでもらい、自分たちも楽しみたいと同年に町内会で作業を始めました。活動をとおして、昇開橋の印象がよくなり、町内の交流が深まっています。また、昇開橋へと続く遊歩道の認知が低いので、清掃活動によってPRができればと考えています。(石橋貞子)



## 佐賀



### 嘉瀬フラワーロード作戦実行委員会

#### バルーンフェスタを花で応援 「コスモスロード」をきっかけに



私たちが活動する嘉瀬町は、佐賀市の秋の風物詩「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」の開催地です。

平成13年、嘉瀬小学校5年生の「学校の近くにコスモスの通りがあつたらいいね」という言葉をきっかけに、子ども会、老人クラブの方々約250人でのコスモスロード(約4km)造りが始まりました。また、バルーンフェスタの時期に、地上から、上空からも喜んでもらおうと、大会に合わせて花の種まきと手入れを開始。平成18年6月には、嘉瀬フラワーロード大作戦として実行委員会(21人)を立ち上げ、路肩350mに年間を通して四季折々の花を咲かせて、おもてなしと町づくりの視点で活動しています。

今後は、県立病院建設予定地前のフラワーロードが、子どもから高齢者まで、心安らぐ通りとなることを目指します。(永瀬薫)



## 大分



### NPO法人アイラブグリーン大分

#### 緑に携わる立場から 街路樹の大切さ訴える



平成18年9月に緑化工事従事者や植木生産者の有志22人で、実際に緑を扱っている者の観点から緑の大切さを訴えたい、との思いで結成しました。現在は、ほかのNPOの活動や行政の活動に積極的に参加。同19年の秋から大分市植田校区在住者を対象に「緑の講習会」の講師も務めています。

「街路樹は本当に大切な、邪魔なの?」。講習会出席者に自由に思いつくことを発言してもらったところ、日ごろ考えもつかないさまざまな意見が出ました。道を歩いて通る人、車で通る人、そこに住んでいる人、行政関係者、それぞれの立場で意見や見方がこうも違うのか思い知らされました。その中で皆が一緒に感じたいことは、人間が住み、鳥や動物も生きていくには、街路樹が大切だということ。今後は、一人ひとりがどうしたら街路樹や緑を育てていけるのか、緑の道の大切さ・必要性を地道に訴え続けていきたいと思っています。(二村沢行)



## 宮崎



### 宮崎みなみ生活ロード女性の会

#### 東九州道の早期完成目指す 官民協働でアマランダ植栽も



私たちは東九州道の早期着工、完成を目指して平成16年4月に結成、会員2700人で活動しています。同19年3月に北郷〜日南まで着工し、県外から多くの方が訪れる様子が目に浮かびます。植栽活動では、国土交通省、日南市、県公園協会の皆さんから苗木と地貸、植栽の方法を教わりながら、国道220号にアマランダの花の苗木を植えました。管理の方法、花壇造りなどの勉強になりました。

昨年度から、日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会にも参加。道路を造ってほしいというお願いばかりでなく、道を使って訪れる人たちに、長く滞在してもらえ心からのおもてなしも考えています。

これからも他団体と連携し、地域の活性化、日南海岸きらめきラインの発展をお手伝いし、子と孫のためにも美しいアマランダの黄色い花が咲いてくれるように続けたいと思っています。(山口勝子)



## 長崎



### 雲仙を美しくする会

#### 国立公園内道路で清掃、植栽 紙くず一つない美しい観光地に



日本最初の国立公園・雲仙を紙くず一つない美しい観光地にしようと、昭和40年に結成。雲仙地区住民で取り組んでおり、毎回150人ほどが参加。主な取り組みは、園内道路の清掃、花壇維持管理、普賢岳の山開き式と山閉じ式、秋のミヤマキリシマの下草刈り、河川清掃などです。

毎月15日の「雲仙クリーンデー」では、温泉街の国道57号沿い清掃を中心に、自治会ごとに協力して各家庭周辺、各旅館・ホテル、事業所周辺でも展開。また、花壇の維持管理でも自然公園財団スタッフを中心に、地元老人会や緑の少年団と協力。雲仙のイベントでよく利用される「お山の情報館別館」前の国道57号沿いで実施しています。

この事業は、国土交通省と市、私たち3者による「ボランティア・サポート・プログラム」の協定によるものです。今後も、行政や地域住民と連携を深め、観光客に喜んでもらえる美しい公園を目指します。(西久幸)



## 鹿児島



### NPO法人三方良

#### 国際港の湾岸道路を清掃 ところざしのまち「しぶし」へ



私たちは、地元・志布志を、そして鹿児島を元氣あふれる活気に満ちたふるさとにしていきたいと平成17年に産声を上げました。現在、会員は41人で、さまざまな業種の人たちが集って海岸清掃や公園清掃などのボランティア、地域活性化の勉強会などを行っています。

中核国際港「志布志港」を持つ私たちは、「さんふらわあ」で大阪から来てくださる方々や、世界各国から寄港される方々に、気持ちよく過ごしていただきたいと湾岸道路の清掃を年1回行い、空き缶などのゴミと路面上の雑草を取り除いています。きれいになると私たちもすがすがしく、「心ゆくまで志布志を、鹿児島を、そして日本を堪能ください」という気持ちになります。「ゆくさおじやいやしたな」とは、鹿児島の方言で「ようこそおいでくださいましたね」という意味です。

今後も、もっとたくさんの方々に参加していただき、きれいなまちづくりができるよう精力的に活動を続けていきたいと考えています。(脇岡良平)







**大韓民国(通称 韓国)**:人口約4,900万人。日本との間では歴史問題も横たわりますが、距離の近さ、そして最近の韓流ブーム・日流ブームなどでもあって交流気運が高まり、往来者は急速に増えている。

**慶尚南道(キョンサンナムド)**:韓国南東部にあり、日本の「県」に相当。数々の史跡や文化遺産、リアス式の美しい海岸線ほか観光スポットも多い。



## 九州に一番近い外国・韓国を走る 慶尚南道のドライブ

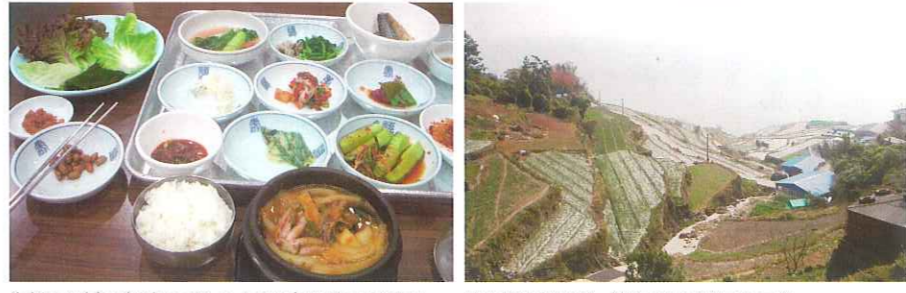
2002年のワールドカップサッカー共催や韓流ブームなどもあって、一層身近に感じられるようになった韓国。なかでも福岡と釜山間は、空路、海路を合わせて年間約100万人が行き交うようになりました。今後旅行者のニーズが成熟化・多様化するにつれ、レンタカーでのドライブという新しい旅のスタイルも広がっていくかもしれません。そこで今回は、韓国南東部・慶尚南道を走ってみよう。

韓国では地方の一般道路の整備も進み、走行環境はなかなか快適。道路は右側通行、クルマも左ハンドルで日本と逆ですが、郊外部は道路混雑もなく走りやすいこともあって、さほど気になりません。沿道には海、山などの美しい自然風景が広がり、またその風景がどことなく九州チックなのが何ともいい感じで、「九州からだ」と東京よりこっちのほうが近いんだもんね。」などとヘンに納得。

慶尚南道は数々の史跡に恵まれた地でもあります。仏国寺、石窟庵、海印寺といった世界遺産、「屋根のない博物館」と称される新羅時代の古都・慶州、そして日本に関わるものでは晋州城など壬申倭乱(豊臣秀吉の朝鮮出兵)時の攻防に纏わるスポットも数多く、道



財団法人 福岡アジア都市研究所 主任研究員・野口誠(上) 研究主査・小牧重己(下) 福岡市の都市政策研究に携わる。韓国南部でのドライブは昨秋体験。



海鮮チゲ(右下)を頼んだら、こんなに小皿がついてきた! 段々畑もあります。植えてあるのはニンニク。

## 道守たちのトピックス

### 外国人学生が道路清掃

昨年末、鳥栖市田代町の日本語学校・弘堂国際学園で学ぶ外国人学生たちが、JR鳥栖駅周辺や学校近くの道路などでゴミを拾い集める地域奉仕活動をした。奉仕活動は日ごろお世話になっている地域へ恩返しをしようと毎年暮れに実施している。

### 市民グループが諫早・赤松坂で植樹

江戸時代に長崎街道沿いにあった松並木を復元しようと、諫早市民らでつくる「長崎街道松並復元諫早実行委員会」の会員らが2月9日、旧街道のたたずまいが残る同市久山町の赤松坂でアカマツの植樹に取り組んだ。同会は、3年計画で松並木をよみがえらせようと今年1月に結成。諫早市内や東彼杵町内で植樹を始めた。

### 「中津日田道路」完成求め決起大会

中津市と日田市を結ぶ地域高規格道路「中津日田道路(約50km)の早期完成を求める決起大会が2月25日、日田市の市民文化会館・パトリア日田で開催された。沿線の官民でつくる建設期成会が主催。中津日田道路の整備促進決起大会が日田

### 市で開かれるのは初めて。

### ひむか神話街道沿いに神話像設置

県商工会議所連合会は、県内10市町村にまたがるひむか神話街道(高千穂町―高原町、全長約300km)沿いに、神話や伝説をモチーフとした神話像ミニユメントを設置する事業に取り組んでいる。日向神話ゆかりの中山間地域などの振興と観光客への周知を図り、同街道の魅力創出を目指す。

### 農道開通祝い大綱引き

国営諫早湾干拓事業(諫早市)の潮受け堤防上を走る農道(約8.3km)の開通を祝う「日本一!! 海上大綱引き」(実行委員会主催)が昨年末、現地であった。県内外から応援者を含め、子どもから大人まで2500人以上が参加して大綱を元気に引き合った。

道守九州会議事務局では道守トピックスを募集しています。連絡先は 電話092(473)1057 FAX092(434)4389まで。ホームページからも投稿できます。

## 道守 人物伝



福岡県久留米市高野 高橋和子さん(61歳)

## 30年の道路清掃は「地域への恩返し」

久留米市の清掃奉仕事業「くるめクリーンパートナー」登録者。30年以上前から毎朝一人で、自宅周辺道路や久留米大橋から小森野橋までの河川敷約1.3kmでゴミを拾う。きっかけは「地域への恩返し」と、一言。幼少期、両親の帰りが遅く、地域にお世話になったことへの恩返しという。

活動の輪は、市民グループや地域住民へと広がった。5年ほど前には、地元の小学生が参加。「若い世代にたすきが渡せた」と喜びを語る。最近の肩書きは、小学生の登下校を見守る「スクールガード」。子どもたちといっしょに通学途中でゴミ拾い、道を守る。出前授業の講師として、小学校の教壇にも立ち、自身の清掃活動を語り継いでいる。

## 道守通信 編集後記

篤姫ブームの「薩摩今和泉」(指宿市)。国道226号沿いに駐車場とトイレが整備され、5、6台の大型観光バス、大にぎわい。が、今日は平日、少ないとのこと。ボランティアガイドさんが約50名単位を引き連れてコース案内。駅や駐車場脇には地元の物産販売。皆さん決して若くないが、笑顔で元気いっぱい!リーダー曰わく「篤姫様は120年経ってもふるさとを忘れておられなかった」...見事な地域おこし、敬服しました。(時枝繁/道守九州会議事務局)

道守九州会議からのお知らせ 「九州とるば」ホームページのサイト移動について 「九州とるば」ホームページは、平成20年4月からサイトを移動することになりました。移動に伴って一時運用休止となりますので、ご了解ください。 道守九州会議事務局の体制変更 道守九州会議事務局は、平成20年4月1日から体制を縮小しました。事務局対応に不足が生じるかもしれませんが、会員の皆さまには今後ともよろしく願いいたします。

## あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

道守とは 「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。

道守活動の例 道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など

道守九州会議会員募集中! ●入会申し込み・お問い合わせ 「道守九州会議」事務局 (社)九州地方計画協会内 〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号 TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389 ホームページもご覧ください。申し込みも可能です 道守HP <http://www.michimori.com> e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)





第3回フォトコンテスト 優秀賞作品  
「夜明け」 稲田義美氏 (宮崎県)

<フオトスポット> 道の駅「日向」。延岡市より国道10号を日向方面へ約30km

駐車場より日の出が見えます。



広報誌「道守通信」春号  
平成20年4月15日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-434-4389

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)